

地区計画ガイド

116 泉パークタウン朝日地区 (泉区)

決定日	R3.5.18 (仙告第290号)
最終 変更日	—

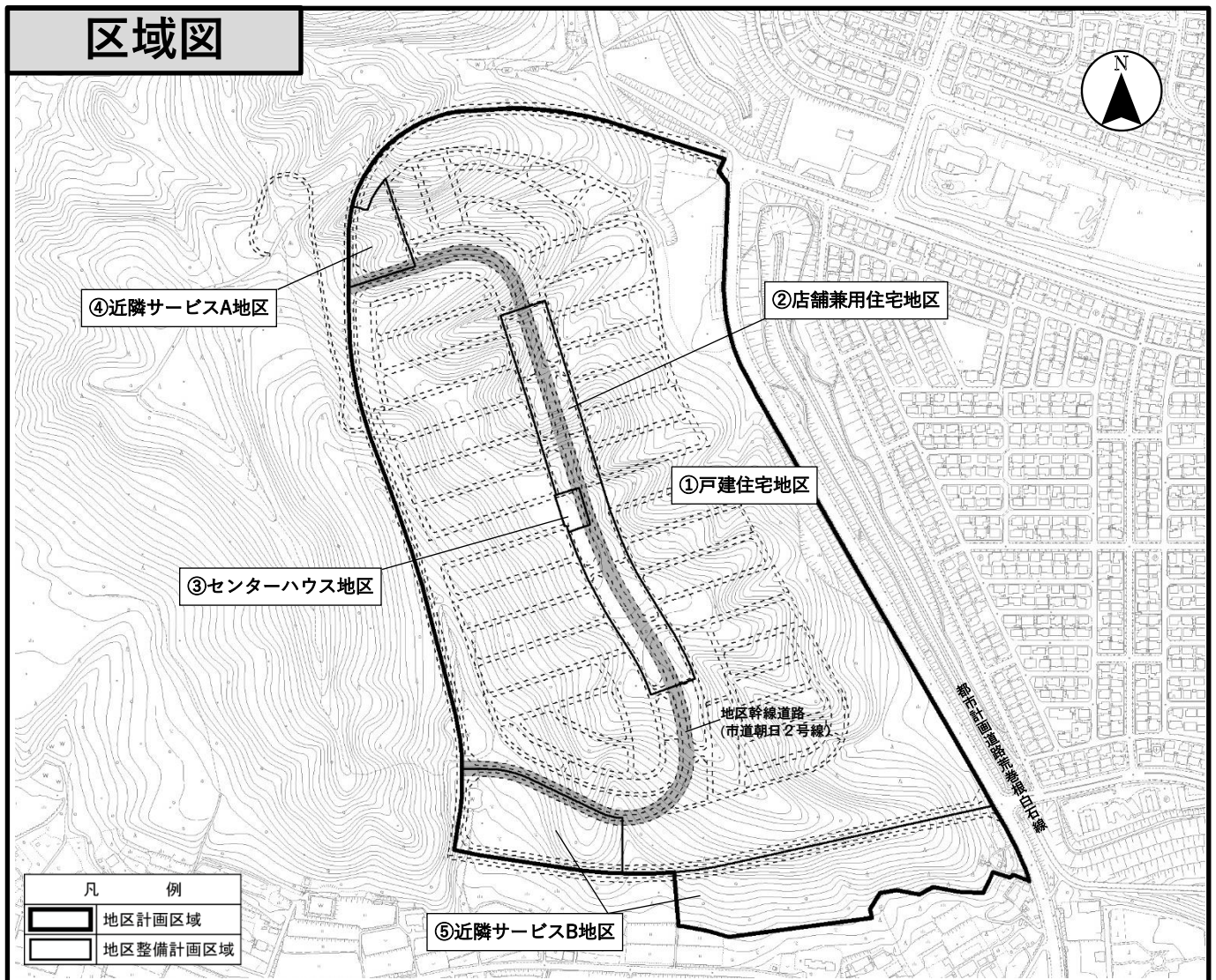
【地区計画ガイド更新日：R 5. 4.26】

地区計画 の目標

本地区は、民間開発により整備が進められている新市街地で、仙台市中心部から北方約10kmに位置する泉パークタウンの一角である。泉パークタウンは、昭和49年のまちびらき以降、「自然との共生」をメインテーマに「住む」「働く」「憩う」「学ぶ・集う・楽しむ」といった多彩な生活機能を備えた複合型のまちづくりを進めてきたが、時代とともに社会環境が変化する中で、持続可能なまちづくりが必要となっている。

そのような中、本地区においては、IoTなどの先進技術やタウンマネジメントを行う仕組みを導入することで、新しい時代に対応した低炭素社会・循環型社会の形成を実現し、「エネルギー」「交通・物流」「健康」「安心・安全」といった分野の社会課題を解決する「持続可能な郊外居住地域」を目指すものである。

区域図



地区計画ガイドは地区計画の概要を示したものです。
地区計画ガイドとあわせて「仙台市地区計画の区域内における建築物の制限に関する条例」をご確認ください。

仙台市の都市計画や土地利用の規制等に関する情報を、インターネットで検索できます。
下記のアドレスまたは右側のQRコードからご利用できます。
https://www2.wagmap.jp/sendai_tokei/



地区計画とは

地区計画制度は、地区の特性に応じた良好な市街地を形成していくために、住民の総意に基づき、地区に必要な道路や公園などの配置や建築物の用途、高さ、壁面の位置、敷地面積、容積率、建ぺい率、かき・さくの構造や建築物の形態・意匠の制限等を、その地区のルールとして定めることができる制度です。

本地区では、以下の方針に基づくまちづくりを進めるため、建築物等への制限を定めております。

■土地利用方針

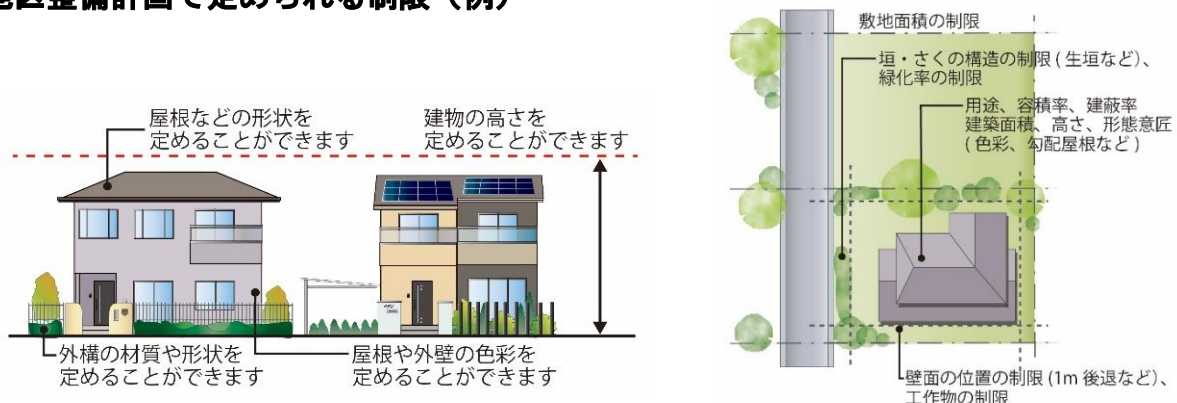
地区整備計画名	土地利用方針
①戸建住宅地区	一戸建ての専用住宅を主体に、自然と調和した閑静な落ち着いたある低層住宅地の形成を図る。
②店舗兼用住宅地区	低層専用住宅の立地を図るとともに、これと調和する日常生活に必要な店舗、飲食店等の施設の立地を図る。
③センターハウス地区	周辺の低層専用住宅との調和を図りながら、居住者の生活サービスを提供する商業施設、事務所等の立地を図る。
④近隣サービス A 地区	居住者及び近隣居住者の生活サービスを提供する商業施設、事務所、健康・福祉施設等を主体とした土地利用を誘導する。
⑤近隣サービス B 地区	

■建築物等への制限（各地区整備計画により、定められている制限項目は異なります。）

制限項目	目的
用途の制限	地区の目指すまちづくりにそぐわない建築物等の用途を規制することにより、その地区にふさわしい建築物等の立地の誘導を図る。
敷地面積の最低限度	敷地面積の規模を制限することにより、敷地の細分化による居住環境の悪化を防止し、ゆとりのある敷地の利用を図る。
壁面の位置の制限	道路や隣地から建築物等を後退し空地を確保することにより、周辺への圧迫感を和らげ、良好な環境の形成を図る。
高さの最高限度 又は最低限度	建築物等の高さを制限することにより、高さの揃った街並みの形成や、土地の高度利用の促進を図る。
形態又は色彩 その他の意匠の制限	建築物等の屋根や外壁などの色、かたち、仕上げ等を制限することにより、特色のある街並みの形成や保全を図る。
垣又はさくの構造の制限	垣やさくの高さ、材料、かたち、色等を制限することにより、緑化の促進や塀の種類や高さを制限し、良好な景観の形成や保全を図る。

※各地区整備計画の制限内容はP4以降をご覧ください。

■地区整備計画で定められる制限（例）



地区計画の届出について

■地区計画の届出とは

- ・建設工事等に先立ち、仙台市が事前に計画内容を審査し、その適合性を確認することにより、地域の皆様が主体となって定めたまちづくりルール（地区計画）の実現を図っていくものです。
- ・地区整備計画が定められた区域内で以下の行為を行う場合は、工事に着手する30日前までに下記担当窓口へ届出を行う必要があります。

■届出が必要な行為（都市計画法第58条の2）

届出が必要な行為	内容
建築物の建築又は工作物の建設	建築物を新築、増築、改築、移転する場合 工作物（垣・さく、門・塀、擁壁、屋外広告物等）を建設する場合
建築物等の形態又は色彩その他意匠の変更	地区計画で建築物等の形態又は色彩その他意匠の制限が定められている区域で、これらを変更する場合
木竹の伐採	地区計画で樹林地等の保全に関する事項が定められている区域で、木竹の伐採をする場合
土地の区画形質の変更	道路や宅地の造成、土地の切土・盛土を行う場合

※建築物等の用途の変更を行う場合は、届出が必要となる場合がありますので、各区役所街並み形成課までご相談ください。

■届出が不要な行為の例（都市計画法施行令第38条の5）

- ・既存の建築物等の管理のために必要な土地の区画形質の変更
- ・開発許可が必要な土地の区画形質の変更
- ・仮設建築物の建築又は仮設工作物の建設
- ・屋外広告物で表示面積が1㎡以下であり、かつ、高さが3m以下であるものの表示又は掲出のために必要な工作物の建設

■よくある質問

Q 1 住宅を新築した際、建物の届出時には外構が未定であったため、「垣又はさくの構造」を未定のまま届出を提出した。建物完成後、外構（垣・さくなど）が決定した場合、届出をする必要はあるか。

A 1 「工作物の建設」に該当する場合は、新たに「地区計画の届出」を行う必要があります。

Q 2 建物完成後、確認申請が不要である建築物を新たに建築する場合、届出をする必要はあるか。

A 2 「建築物の建築」に該当するため、新たに「地区計画の届出」を行う必要があります。

Q 3 建物の新築時に植えた生垣が枯れたため、新たな生垣を設置しようとする場合、届出をする必要はあるか。

A 3 通常の管理行為であるため、「地区計画の届出」の必要はありません。通常の管理行為か否かの判断が悩ましい場合は、担当窓口までご相談ください。

Q 4 地区計画の届出後（建物が完成する前の段階）に、建築計画の変更があり、届け出た内容に変更が生じた場合、「変更届出書」を提出する必要があるが、変更箇所が地区計画で制限されていない項目でも、「変更届出書」を提出する必要があるか。

A 4 「変更届出書」は、届出内容に変更があった場合に必要となるため、制限の有無に関わらず、届け出た内容に変更があった場合には、「変更届出書」を提出する必要があります。

Q 5 土地利用方針のみが定められた区域内で、建築物の建築又は工作物の建設の行為を行う場合、届出をする必要はあるか。

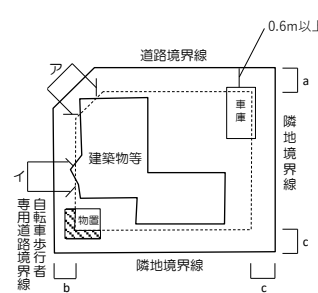
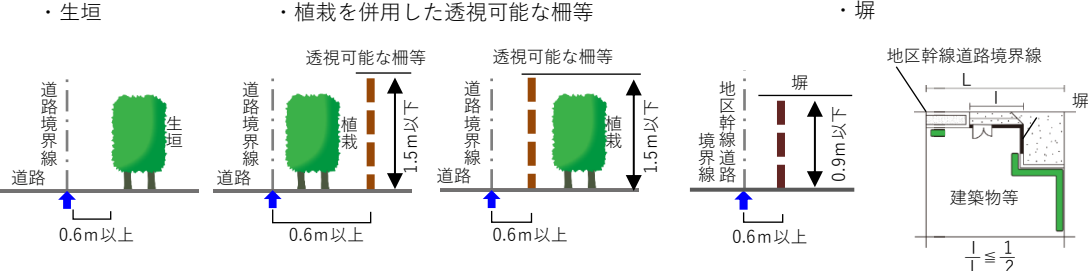
A 5 「地区計画の届出」を行う必要はありません。

お問い合わせ先

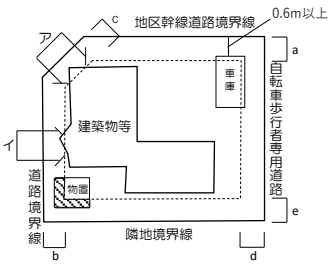
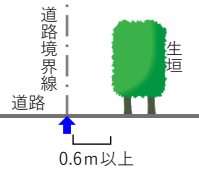
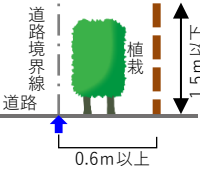
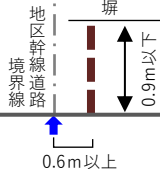
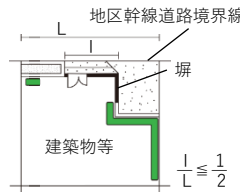
地区計画の届出、制限内容の確認、建築相談に関すること・・・各区役所 街並み形成課
青葉区 022-225-7211(代表) 宮城野区 022-291-2111(代表) 若林区 022-282-1111(代表)
太白区 022-247-1111(代表) 泉区 022-372-3111(代表)

地区計画等の都市計画に関すること・・・都市整備局 都市計画課 022-214-8295

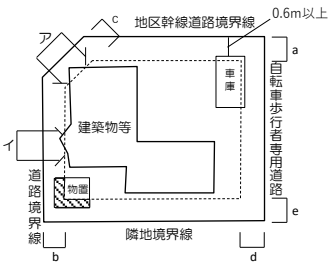
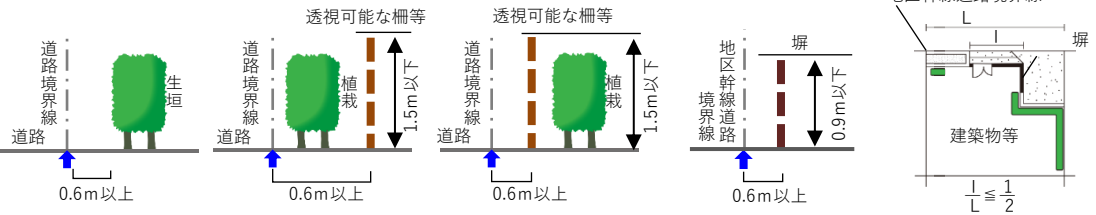
制限表

整備計画名 z	① 戸建住宅地区
土 地 利 用 方 針	一戸建ての専用住宅を主体に、自然と調和した閑静な落ち着いたある低層住宅地の形成を図る。
用 途 の 制 限	下記の建築物（専らその用途に供する建築物及びこれに附属する建築物（令第130条の5各号に掲げるものを除く。）に限る。）以外は建築できません。（警察官派出所等を除く。） ア 住宅 イ 兼用住宅 ウ 幼稚園 エ 幼保連携型認定こども園 オ 保育所
敷 地 面 積 の 最 低 限 度	200㎡（警察官派出所等を除く。）
壁面の位置の制限	建築物の外壁又はこれに代わる柱の面から次の各号に掲げる境界線までの距離は、以下のとおりとする。 1. 自転車歩行者専用道路以外の道路…1.5m以上（a） 2. 自転車歩行者専用道路…1m以上（b） 3. すべての隣地…1m以上（c） 緩和規定 ① 図ア＋イが3m以下のもの ② 部分的床面積の合計が5㎡以下で、かつ、軒の高さが2.3m以下のもの（自動車庫を除く。） ③ 自動車庫でその外壁等の面及びひさし等の先端が道路境界線より0.6m以上離れたもの 
形 態 又 は 色 彩 そ の 他 の 意 匠 の 制 限	1. 建築物の形態及び意匠は、周囲の環境に調和させるものとする。 2. 屋外広告物を設置する場合は、美観・風致を害しない自己の用に供するものとするとともに、その表示面積の合計は概ね1.0㎡以下とし、かつ、道路境界線からの距離は0.6m以上としなければならない。ただし、公益上やむを得ないものについては、この限りでない。 3. 建築物に附属する門は、道路境界線からの距離は0.6m以上でなければならない。
垣 又 は さ く の 構 造 の 制 限	1. 道路（自転車歩行者専用道路を除く。）に面して設ける垣又はさくは、次の各号のいずれかに該当するものとし、道路境界線から0.6m以上後退しているものとする。 (1) 生垣 (2) 植栽を併用した高さ1.5m以下の透視可能なもの (3) 地区幹線道路に面して設ける高さ0.9m以下のへい（コンクリートブロック造及び補強コンクリートブロック造を除く。） 2. 地区幹線道路に面して設けるへいは、前項の要件に加えて、地区幹線道路に面して設けるへいの長さの合計が、敷地のうち地区幹線道路に面する部分の長さの半分以上のものとする。 ・ 生垣 ・ 植栽を併用した透視可能な柵等 ・ 塀 
用 途 地 域 (容積率/建ぺい率)	第1種低層住居専用地域（60%/40%）

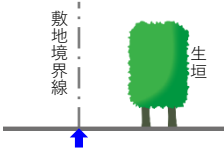
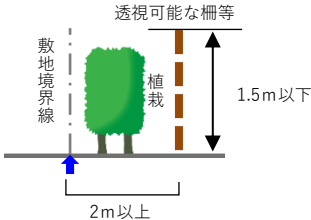
制限表

整備計画名	② 店舗兼用住宅地区
土地利用方針	低層専用住宅の立地を図るとともに、これと調和する日常生活に必要な店舗、飲食店等の施設の立地を図る。
用途の制限	下記の建築物は建築できません。 ア 共同住宅、寄宿舎、下宿又は長屋 イ 神社、寺院、教会その他これらに類するもの ウ 公衆浴場 エ 病院 オ 法別表第2（と）項第4号に規定する危険物の貯蔵又は処理に供するもの カ 倉庫（建築物に附属するものを除く。） キ 自動車車庫（建築物に附属するものを除く。） ク 事務所
敷地面積の最低限度	200㎡（警察官派出所等を除く。）
壁面の位置の制限	1. 建築物の外壁又はこれに代わる柱の面から次の各号に掲げる境界線までの距離は、以下のとおりとする。 （1）地区幹線道路（隅切を除く。）…2.5m以上（a） （2）地区幹線道路及び自転車歩行者専用道路以外の道路…1.5m以上（b） （3）地区幹線道路の隅切…1.5m以上（c） （4）自転車歩行者専用道路…1.0m以上（d） （5）すべての隣地…1.0m以上（e） 緩和規定 ① 図ア＋イが3m以下のもの ② 図イ部分の床面積の合計が5㎡以下で、かつ、軒の高さが2.3m以下のもの（自動車車庫を除く。） ③ 自動車車庫でその外壁等の面及びひさし等の先端が道路境界線より0.6m以上離れたもの 
高さの最高限度	10m
形態又は色彩その他の意匠の制限	1. 建築物の形態及び意匠は、周囲の環境に調和させるものとする。 2. 屋外広告物を設置する場合は、美観・風致を害しない自己の用に供するものとするとともに、その表示面積の合計は概ね3.0㎡以下とし、かつ、道路境界線からの距離は0.6m以上としなければならない。ただし、公益上やむを得ないものについては、この限りでない。 3. 建築物に附属する門は、道路境界線からの距離は0.6m以上でなければならない。
垣又はさくの構造の制限	1. 道路（自転車歩行者専用道路を除く。）に面して設ける垣又はさくは、次の各号のいずれかに該当するものとし、道路境界線から0.6m以上後退しているものとする。 （1）生垣 （2）植栽を併用した高さ1.5m以下の透視可能なもの （3）地区幹線道路に面して設ける高さ0.9m以下のへい（コンクリートブロック造及び補強コンクリートブロック造を除く。） 2. 地区幹線道路に面して設けるへいは、前項の要件に加えて、地区幹線道路に面して設けるへいの長さの合計が、敷地のうち地区幹線道路に面する部分の長さの半分以上のものとする。 ・生垣  ・植栽を併用した透視可能な柵等  ・塀  
用途地域（容積率/建ぺい率）	第2種中高層住居専用地域（200%/60%）

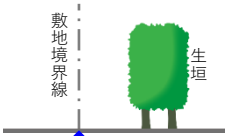
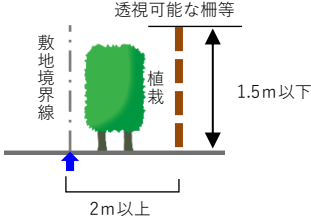
制限表

整備計画名	③ センターハウス地区
土地利用方針	周辺の低層専用住宅との調和を図りながら、居住者の生活サービスを提供する商業施設、事務所等の立地を図る。
用途の制限	下記の建築物は建築できません。 ア 住宅 イ 兼用住宅 ウ 共同住宅、寄宿舎、下宿又は長屋 エ 学校、専修学校、各種学校、図書館その他これらに類するもの オ 神社、寺院、教会その他これらに類するもの カ 老人ホーム、福祉ホームその他これらに類するもの キ 老人福祉センター、児童厚生施設その他これらに類するもの ク 公衆浴場 ケ 病院 コ 法別表第2（と）項第4号に規定する危険物の貯蔵又は処理に供するもの サ 倉庫（建築物に附属するものを除く。）
敷地面積の最低限度	500㎡（警察官派出所等を除く。）
壁面の位置の制限	1. 建築物の外壁又はこれに代わる柱の面から次の各号に掲げる境界線までの距離は、以下のとおりとする。 (1) 地区幹線道路（隅切を除く。）…2.5m以上（a） (2) 地区幹線道路及び自転車歩行者専用道路以外の道路…1.5m以上（b） (3) 地区幹線道路の隅切…1.5m以上（c） (4) 自転車歩行者専用道路…1.0m以上（d） (5) すべての隣地…1.0m以上（e） 緩和規定 ① 図ア＋イが3m以下のもの ② 図イの部分の床面積の合計が5㎡以下で、かつ、軒の高さが2.3m以下のもの（自動車庫を除く） ③ 自動車庫でその外壁等の面及びひさし等の先端が道路境界線より0.6m以上離れたもの 
形態又は色彩その他の意匠の制限	屋外広告物を設置する場合は、美観・風致を害しないものでなければならない。ただし、公益上やむを得ないものについては、この限りでない。
垣又はさくの構造の制限	1. 道路（自転車歩行者専用道路を除く。）に面して設ける垣又はさくは、次の各号のいずれかに該当するものとし、道路境界線から0.6m以上後退しているものとする。 (1) 生垣 (2) 植栽を併用した高さ1.5m以下の透視可能なもの (3) 地区幹線道路に面して設ける高さ0.9m以下のへい（コンクリートブロック造及び補強コンクリートブロック造を除く。） 2. 地区幹線道路に面して設けるへいは、前項の要件に加えて、地区幹線道路に面して設けるへいの長さの合計が、敷地のうち地区幹線道路に面する部分の長さの半分以下のものとする。 ・生垣 ・植栽を併用した透視可能な柵等 ・堀 
用途地域（容積率/建ぺい率）	第2種中高層住居専用地域（200%/60%）

制限表

整備計画名	④ 近隣サービスA地区
土地利用方針	居住者及び近隣居住者の生活サービスを提供する商業施設、事務所、健康・福祉施設等を主体とした土地利用を誘導する。
用途の制限	下記の建築物は建築できません。 ア 住宅 イ 兼用住宅 ウ 共同住宅、寄宿舎、下宿又は長屋 エ 大学、高等専門学校、専修学校、各種学校、図書館その他これらに類するもの オ 神社、寺院、教会その他これらに類するもの カ 法別表第2（と）項第4号に規定する危険物の貯蔵又は処理に供するもの キ 自動車車庫（建築物に附属するものを除く。）
敷地面積の最低限度	500㎡（警察官派出所等を除く。）
壁面の位置の制限	建築物の外壁等の面から次の各号に掲げる境界線までの距離は、以下のとおりとする。 （1）地区幹線道路（隅切を除く。）…2.5m以上 （2）地区幹線道路及び自転車歩行者専用道路以外の道路…1.5m以上 （3）地区幹線道路の隅切…1.5m以上 （4）自転車歩行者専用道路…1.0m以上 （5）すべての隣地…1.0m以上
形態又は色彩その他の意匠の制限	屋外広告物を設置する場合は、美観・風致を害しないものでなければならない。ただし、公益上やむを得ないものについては、この限りでない。
垣又はさくの構造の制限	垣又はさくは、生垣又は次の各号に該当するさくとする。 (1) 植栽を併用した高さが1.5m以下の透視可能なもの (2) 敷地境界線から2m以上後退しているもの ・ 生垣  ・ (1), (2) に該当する垣又は柵 
用途地域 (容積率/建ぺい率)	第2種中高層住居専用地域（200％/60％）

制限表

整備計画名	⑤ 近隣サービスB地区
土地利用方針	居住者及び近隣居住者の生活サービスを提供する商業施設、事務所、健康・福祉施設等を主体とした土地利用を誘導する。
用途の制限	下記の建築物は建築できません。 ア 住宅 イ 兼用住宅 ウ 共同住宅、寄宿舎、下宿又は長屋 エ 大学、高等専門学校、専修学校、各種学校、図書館その他これらに類するもの オ 法別表第2（と）項第4号に規定する危険物の貯蔵又は処理に供するもの カ ホテル又は旅館 キ 自動車教習所 ク 畜舎 ケ 自動車車庫（建築物に附属するものを除く。） コ 自動車に直接燃料を供給するための施設又は自動車修理工場
敷地面積の最低限度	1,500㎡（警察官派出所等を除く。）
壁面の位置の制限	建築物の外壁又はこれに代わる柱の面から次の各号に掲げる境界線までの距離は、以下のとおりとする。 （1）自転車歩行者専用道路以外の道路…3m以上 （2）自転車歩行者専用道路…1m以上 （3）すべての隣地…1m以上
形態又は色彩その他の意匠の制限	屋外広告物を設置する場合は、美観・風致を害しないものでなければならない。ただし、公益上やむを得ないものについては、この限りでない。
垣又はさくの構造の制限	敷地の周囲に設置する垣又はさくは、生垣又は次の各号に該当するさくとする。 (1) 植栽を併用した高さが1.5m以下の透視可能なもの (2) 敷地境界線から2m以上後退しているもの ・ 生垣  ・ (1), (2) に該当する垣又は柵 
用途地域（容積率/建ぺい率）	第1種住居地域（200%/60%）

用語の解説

※本地区では使用されていない用語も含まれております。

用 語	用語の解説
法	建築基準法
令	建築基準法施行令
風 営 法	風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律（昭和23年法律第122号）
一 戸 の 住 宅 の 用 途	兼用住宅に係る住宅の用途を含む。
住 宅	一戸の住宅の用途に供する建築物で、兼用住宅以外のもの
兼 用 住 宅	一戸の住宅の用途に供する建築物で、住宅以外の用途を兼ねるもの
店 舗 等	店舗、飲食店又は事務所
学 校	学校教育法（昭和22年法律第26号）第1条に規定する学校
専 修 学 校	学校教育法第124条に規定する専修学校
各 種 学 校	学校教育法第134条第1項に規定する各種学校
老 人 福 祉 施 設 等	老人福祉法（昭和38年法律第133号）の規定に基づき設置される老人福祉施設及び有料老人ホーム
児 童 福 祉 施 設	児童福祉法（昭和22年法律第164号）の規定に基づき設置される児童福祉施設
サービス付き高齢者向け住宅事業に係る賃貸住宅	高齢者の居住の安定確保に関する法律（平成13年法律第26号）第5条第1項に規定するサービス付き高齢者向け住宅事業に係る賃貸住宅
サービス付き高齢者向け住宅事業に係る賃貸住宅等	サービス付き高齢者向け住宅事業に係る賃貸住宅その他これに類するもの又は児童福祉法第6条の3第8項に規定する小規模住居型児童養育事業、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（平成17年法律第123号）第5条第18項に規定する共同生活援助、介護保険法（平成9年法律第123号）第8条第20項に規定する認知症対応型共同生活介護若しくは同法第8条の2第15項に規定する介護予防認知症対応型共同生活介護若しくは地区内の施設の従事者及びその家族若しくは入院患者の家族の居住の用に供するもの
薬 局	医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（昭和35年法律第145号）第2条第12項に規定する薬局
店舗型性風俗特殊営業	風営法第2条第6項各号に掲げる営業
第 二 石 油 類	消防法（昭和23年法律第186号）別表の備考14に規定する第二石油類
自 転 車 等 駐 車 場	仙台市自転車等駐車場の附置及び建設奨励に関する条例（昭和62年仙台市条例第12号）第2条第2号に規定する自転車等駐車場
警 察 官 派 出 所 等	警察官派出所、公衆便所その他これらに類する建築物で公益上必要なもの
平家建の附属建築物等	平家建の附属建築物又は門若しくはへい
整 備 計 画 区 域	地区整備計画が定められた区域
都 市 再 生 特 別 地 区	都市再生特別措置法（平成14年法律第22号）第36条第1項の規定により定められた都市再生特別地区
指 定 容 積 率	都市計画法第8条第3項第2号イの規定により定められた建築物の容積率
隣 地	公園、緑道、地区施設用地、鉄道用地、水路、公共空地その他の隣地
道 路 等	道路若しくは緑道
外 壁 等	外壁又はこれに代わる柱
ひ さ し 等	ひさし、屋根その他これらに類するもの
コ ン ク リ ー ト ブ ロ ッ ク 造 等	コンクリートブロック造、補強コンクリートブロック造、石造、レンガ造その他これらに類するもの
擁 壁 等 の 笠 石	擁壁の笠石又は道路等に沿って設けられている笠石